

地域と家庭と学校が一つになって子どもを育む…それが“チーム七小”です！



くさぶえ

福生市立福生第七小学校
令和7年度 学校だより

福生第七小学校
ホームページ
URL



<https://fussa-7e.hs.fussa.school/>

所在地 福生市北田園一丁目1番地1

発行責任者 校長 菅野 恭子

令和7年10月31日 発行

「思いやる」ということ

副校長 山田 尚人

ある日の中休み、Aさんがぷっくりと頬を膨らませて廊下に立っていました。どうやら一緒に遊んでいた友達と何やらもめ事があったようです。どうしたの？と尋ねてみると、Aさんは少し興奮した様子で話し始めました。

Aさん：「Bさんたちとおにごっこをしてたんだけど、僕が逃げている間にBさんとCさんがぬけちゃったんだ！僕は何も聞いていないのに・・・。」

私：「そうか・・・それはちょっとひどいよね。ちゃんとみんなを集めて『ぬける』って言ってくれないと、だれがやっているのか分からなくなっちゃうよね。」

Aさん：「うん。だから怒って帰ってきたんだ！」

私：「そう・・・。ところで他に一緒に遊んでいた子はいるの？」

Aさん：「うん。あとDさんとEさんとFさんが一緒にやっていたよ。」

私：「そうなんだ・・・。ん？ところで、Aさんは教室に戻ることをDさんたちに言ってきたんだよね？」

Aさん：「あ・・・。」

Aさんは気まずそうな表情で、うつむいてしまいました。友達にされて「いやだなあ」と感じたことを、Aさんも知らず知らずのうちに別の友達にできてしまっていたわけです。

このようなことが子どもたちの間ではよく起こります。「自分がされて嫌なことは友達にもしない」これまで子どもたちに、ことあるごとに話してきた言葉です。これは相手の思いを尊重し、相手の立場に立って物事を考えましようという意味なのですが、「相手の立場に立つ」というのは、子どもたちにとってはなかなか難しいことなのです。

友達に悪口を言われたと泣いていた子が、翌日には別の友達に悪口を言っている。体育の授業で、真剣に走らない友達を注意していた子が、国語の授業ではおしゃべりばかりで、注意をされている。学校での様子を見ていても、Aさんのように、まだまだ相手の思いよりもその瞬間の自分の思いが勝ってしまう子のほうが多いと言えます。

子どもたちには、想像力を働かせ、「自分以外の立場」に立ち、物事を考えられる力を身に付けてほしいと考えます。「自分がされていやだったからやらない」からさらに一歩踏み出し、「いやだった」という経験がなくても、自分がこんなことをされたらどう思うだろう？こんなことを言われたらいやなのではないかな？と相手の思いを想像しながら行動したり、言葉をかけたりすることができる人になってほしいと願います。だからこそ学校では、国語や道徳の学習を中心に、様々な立場の人の「気持ちを考える」こと、様々な立場の人の「気持ちや考えを伝え合う」ことを繰り返し行っています。

「自分がされて嫌なことはしない」「相手がされて嫌だろうなと思うことはしない」このことができるようになった子どもたちは、きっとこんな考えももてるようになるのではないのでしょうか。「自分がされて嬉しいことをどんどんやろう！」「相手がされて嬉しいだろうなと思うことをどんどんやろう！」相手の立場に立ったり、相手の思いを想像したりしながら行動してみると、言葉をかけてみると、その人を喜ばせることができます。その人を笑顔にすることができます。そして、その人の嬉しそうな笑顔は、きっと自分自身を幸せな気持ちにさせてくれるはずです。